

豊通リチウム株式会社

企業の基本情報

代表者：代表取締役社長 片山昌治

進出時期：2021年上半期から生産開始予定。

従業員数：50名以上（予定）

敷地面積：約16,000㎡

事業概要

豊田通商がオーストラリアのリチウム資源開発会社 Orocobre Ltd と合併で新会社「豊通リチウム株式会社」を設立し、水酸化リチウムの製造を開始予定。生産する水酸化リチウムの原料である炭酸リチウムは、アルゼンチンの生産拠点から調達し、生産能力は年間10,000トンを目指す。製品は、車載二次電池用だけでなく、他工業製品用としても販売する予定。

Q1. 檜葉町に進出した経緯・進出の決め手を教えてください。

東京湾周辺から原料を陸送するため、首都圏から遠すぎず、交通インフラが整っている場所を探していました。

いくつか候補となる地域がある中で、福島県の浜通りは、立地企業に対する国や県の助成制度等のサポートが充実していたため注目しました。

福島県浜通りエリアの中で、最終的に檜葉町に進出することを決めました。檜葉町には、求めているサイズの敷地があったこと、加えて需要家様との距離が近かったことが決め手となりました。

Q2. 立地して良かったと思う点を教えてください。

いざ進出するとなると、許認可申請や式典の準備・開催等に付随して、様々な事務手続きが発生します。手続きを一緒に進める自治体との関係性は大切だと感じています。

檜葉町は、様々な手続きに対してスピーディーに対応してくれたり、多くのことに相談に乗ってくれたり、進出に対して丁寧にサポートしてくれました。そのような対応は心強かったです。

また、榎葉町は復興に向けた町づくりにも力を入れており、一町民として住むことを考えると、コンパクトタウンやスポーツ施設の整備が進んでいることも魅力的です。

Q3.地域連携・地域企業間連携の方向性について、どのようにお考えですか。

進出にあたって様々なサポートをいただいている分、私たちが町のために貢献したいと考えています。先日、榎葉町で台風による被害が発生した際には、トラックでペットボトルの飲料水を運ぶため、現地に向かいました。このように、町と企業がお互いに支え合うことのできる関係性を継続したいと考えています。

Q4.榎葉町に期待すること・課題はありますか。

榎葉町を通る、常磐自動車道と国道6号線はとても混んでしまうので、渋滞緩和に向けた道路整備が進めば良いなと思います。また、町内の要所を結ぶような循環バスがあれば便利だと思います。

Q5.今後の事業展開について教えてください。

まずは、現在建設中の工場をしっかりと立ち上げて、操業安定させることに注力したいと思います。その後、榎葉町の工場をマザー工場（生産拠点）として、事業を拡大していきたいと考えています。

Q6.最後に、これから進出する企業へのメッセージをお願いします！

まだ進出したばかりではありますが、ぜひ、榎葉町の企業同士でも連携して、榎葉町をさらに盛り上げていきましょう！

お写真



(キャプション) 取締役 田形拓郎さん コーポレート関係全般を担当している。檜葉町のお気に入りスポットは、上質な蕎麦やボリュームたっぷりの天ぷらが堪能できる「そば処やぶそば」。